

令和元年度 すこやかメールマガジン 第 680【体罰にたよらない①】 2月5日配信

子どもの発達段階には、夜泣きやイヤイヤ期、反抗期など、どんなに愛しい我が子であっても、その時々でイライラしたり、かっとなったりする場面があります。心と体、時間、経済的ゆとりがないと、なおさらです。

岩手県における平成 30 年度の虐待相談対応件数は、1,983 件で、過去最多となっています。主な虐待者は、実母 47.8%、実父 38.6%。虐待の種類としては、心理的虐待 49.8%、身体的虐待 26.0%となっています。

今回は、体罰によらない子育てのために、子育てに詳しい専門科のアドバイスを見つけましたので読売新聞の記事から紹介します。(令和元年 8 月 17 日付より参考・引用)

精神科医の明橋大二（あけはし だいじ）氏は「体罰はよくないと知っていて、本当は子どもをたたきたくないと思っている親は多い」と指摘しています。

そして、子育てで一番大切なのは、「子どもの自己肯定感を育む」ことで、そのためには、「親の褒め方が上手になると叱ることが減る」と話し、その方法を紹介しています。



□褒める時は、子どもの頑張りや成長を見つけ、その喜びを伝えると、子どものやる気が出やすくなる。

□叱る時は、子どもの動きを止め、同じ目線で語りかける。よくない理由と、どうしてほしいかを短い言葉で伝える。例えば、友達からおもちゃを無理矢理奪ったときは、「それはよくないよ。『貸して』』と言おうね」などと短い言葉で伝える。

□「ママは」「お父さんは」など親を主語にして気持ちを伝える。「ママは悲しいよ」など。

思春期の場合でも同じです。褒める時は子どもを「評価」するのではなく、子どもの頑張りや成長を見つけ、喜びを伝える。すぐに結果が出るときばかりではありませんよね。

また、叱るときは子どもを否定するのではなく、自分も他人も大切にできるように、良くない行為を「具体的に」、「静かに」、「短い言葉で」伝えましょう。親の考えとして、「私はこう思う」と伝えることで、押しつけにならず、子ども自身も振り返って考える手がかりになります。

そうは言っても、親の心のゆとりが必要です。そのための工夫は別の機会に。【Y】

○メルマガで取り上げて欲しい内容や感想など、下記アドレスにお寄せいただければ嬉しく思います。（アドレス登録又は配信停止もこちらからどうぞ(^_^)

mailto:kosodatem@pref.iwate.jp

○メルマガのバックナンバーを当センターHPで閲覧することができます。

アドレスはこちら

「まなびネットいわて」（<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/>）>「発行物・刊行物」

>すこやかメルマガ

これからも、どうぞよろしく申し上げます(^_^)/

【発行】

岩手県立生涯学習推進センター

025-0301 花巻市北湯口2-82-13

TEL 0198-27-4555

URL:<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/> 「まなびネットいわて」で検索